

1 Nexus - つながり - を広げる

Nexus にこめられた思いを

Nexus21は、「Nexus(つながり)」の名の通り、人・情報・自然が有機的につながる場です。私たちは、トイレもその連続的な体験の一部として、つながりを感じられる空間を目指しました。

つながりを編む

この「つながり」を編み込むように、連続する空間を設計しました。利用者自身が空間に少し手を加えたり、彩りを添えたり、完成後も活動や個性が編み込まれ続けるような場を目指しました。

2 曲線壁 - 編み込める壁 -

この「編む」を実現するには、利用者が実際に手を加えられる余白を持った壁が必要です。そこで私たちは、壁ではなく格子で構成した曲線壁を考えました。格子であれば、通路幅を確保しながら、ものをかけたり付け加えたりしやすくなります。

壁

格子壁

① 洗面とパウダールームの一体的利用

曲線壁によって、トイレ・洗面パウダールームを一体的に構成し占有空間と共有空間を緩やかに繋ぎました。曲線壁が視線と動線をやさしく区切ることで、居心地を確保しながら、自然な交流を生み出します。

占有

共有

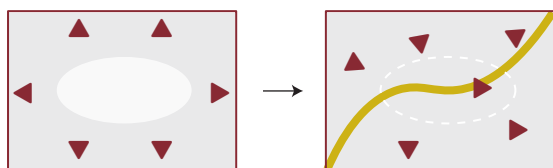
占有

② 曲線による中心の活用と多様な滞在

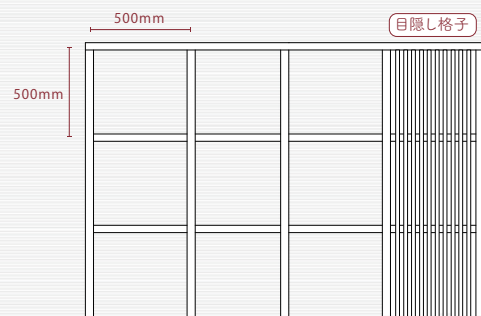
曲線を工夫することで、壁側の安心感と中心の多様な滞在を両立し、使い手が居場所を選べる空間を目指しました。中心という「活用されにくい場」を、曲線が編み込むことで多様な滞在の場へと変えています。

活用されない中心

場の多様性

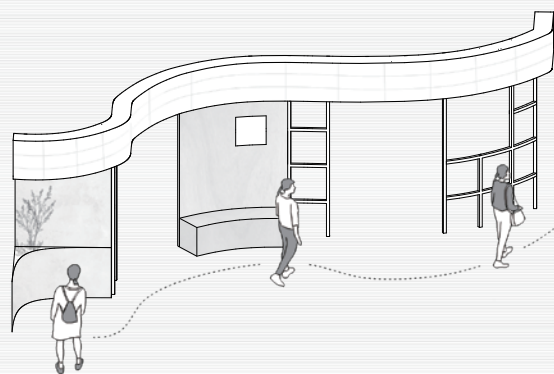


POINT 1 格子による可変性・仮設性



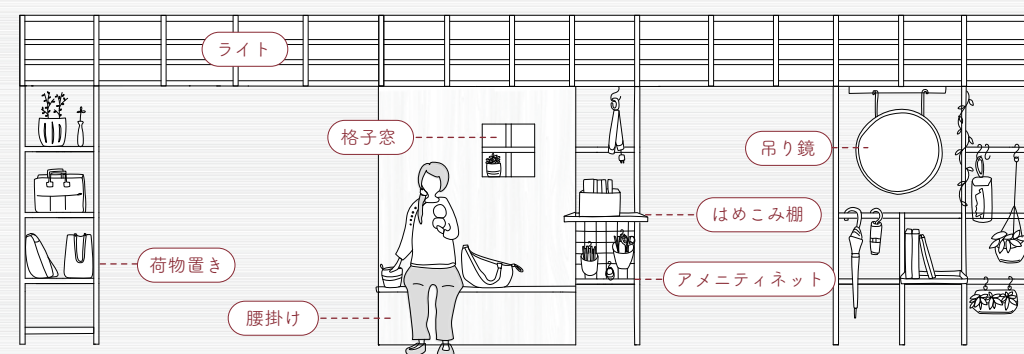
曲線壁は500×500mmの格子で構成し、広島県産木材を用いて計画します。このモジュールは、緩やかな境界をつくり、家具や人のスケールにも馴染む寸法です。モジュール化により施工性と更新性を両立しています。

POINT 2 シークェンスライト



曲線壁に沿って、紙と格子で構成したシーケンスライトを計画しました。柔らかな光が曲線に沿って奥へと導き、移動と滞在を緩やかに繋ぎます。曲線のくぼみやふくらみに応じて光の表情が変化し、多様な居場所をやさしく包みます。

POINT 3 編みこむレシピ



曲線壁に沿って、荷物置き、ベンチ、植栽、たまりが連続し、歩く中で多様な居場所が現れます。一つの棚が加わる - 鏡が掛かる - 作品が飾られる - 植物が育つ - 窓越しに会話が生まれる - 人が集まる - 格子には使い手の工夫や活動が少しずつ編み込まれ、昨日とは違う居場所が生まれていきます。空間は少しずつ姿を変え、新しい使い方や出会いを受け止めます。私たちは、「アミコミチ」をみんなで育て、新たな活動が広がっていくことを願い設計しました。

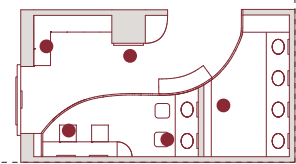


曲線に導かれ、居場所を選び、活動が重なり、新たなつながりが編み込まれていく空間

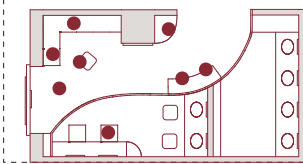
パウダールームの多様な使われ方

日常時

メイク直し



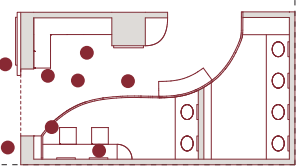
友達とコマ休憩



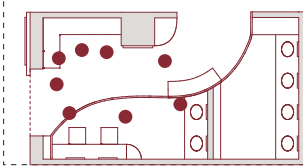
授業や外出前後の身だしなみやメイク直しに加え、授業の合間には友人との会話やひと休みなど、それぞれの過ごし方を受け入れる居場所となります。

イベント時

講演会前の身支度



JCDでの活動



デネブホールで講演会や発表会などが行われる際には、パウダールームを開放することで、来場者の身支度を支えるとともに、メイクレッスンや着付け、ヘアアレンジ講座など、JCDによる多様な活動にも活用できます。



既存の開口についてのご相談

私たちは、通常時は閉じた運用を基本とし、イベント時には既存開口を開放することで、**空間を一体的に利用できる可能性**があると考えています。封鎖状態においても、曲線が自然なたまりを生み出し、L字ソファや植栽を配置することで、落ち着いて過ごせる居場所を計画しています。



素材がつなぐ空間デザイン

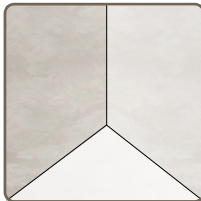
廃材の再利用

机や椅子には、広島工業大学内で発生する木材の廃材を活用し、**材料コストの削減**を図っています。**キャンパス内**で資源を循環させるサステナブルな空間を目指します。



光を映し出す素材

床・壁・天井を同一素材で統一し、継ぎ目を少なくすることで、**空間の連続性と清掃性**を高めています。また、繊細な凹凸のある仕上げにより、シークエンスライトが生み出す**光の表情**を引き出します。



快適な環境づくり

環境を整える小型空調やディフューザーによって、新鮮な空気や香りを循環させ、居心地の良い環境づくりを行っています。



清掃・メンテナンス

床に曲線を取り入れることで、汚れが溜まりにくく清掃しやすい空間としています。また、清掃用具倉庫には収納棚を設け、清掃スタッフにも配慮した計画としています。

車いす利用者

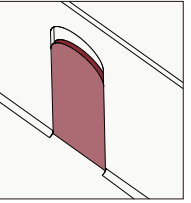
多目的トイレには、身だしなみを整えられる設備を設け、車いす利用者也活用しやすい納まりで設計しています。

曲線による1体的なデザイン

今回のパウダールームでは、空間全体のデザインコードとして曲線を持ち寄っています。曲線は、空間の一体感を生み出すだけでなく、**利用者に安心感や心理的な落ち着きを与えます。**

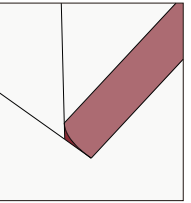
① 曲線扉

個室トイレの扉は、パウダールームとリズムを合わせた曲線形状としました。空間全体に統一感を生み、柔らかく安心感のある雰囲気を演出します。



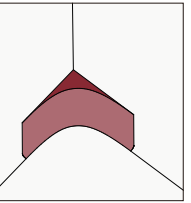
② 曲線巾木

巾木部分に曲線を設けることで、ほころがたまりやすい入隅を減らし、日常の清掃がしやすい納まりとしています。



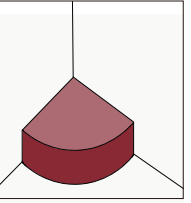
③ コーナーグリーン

コーナー部分は植栽によって角をやわらげ、ゆるやかな動線を生み出しています。また、維持管理の負担を考慮し、必要最小限の量にとどめています。



④ 曲線家具

曲線家具を配置することで、動線を自然と誘導・変化させ人の流れやたまりを形成できます。



活動の舞台となる空間



光の対比で空間を仕切る



トイレに落ち着きを与える曲線

